

本部別事業戦略



取締役副社長
グローバル本部長
石附 武積

グローバル本部

当社の海外事業は2019年のみずほ銀行、丸紅との業務提携を梃子に拡充を続けています。2020年には米国航空機リース会社、米国冷凍冷蔵トレーラーリース会社、ベトナムのファイナンス会社、2022年には豪州の中古車ファイナンス会社に資本参加。2023年にはインドにてエクイップメントリースを営むRent Alpha社を買収し高い成長が見込まれるインドに新規進出も果たしています。中期経営計画2025においてもM&Aを通じたインオーガニック戦略によるビジネス領域の拡大を目指します。

強み

アライアンスパートナー（みずほフィナンシャルグループ、丸紅グループ）との強固な協業体制

アジア・オセアニア地域での当社拠点ネットワーク

国内外での多様な実績とソリューション提案力

成長戦略と中計2025の進捗状況について

丸紅連携の深化と拡大

- みずほリースおよび丸紅両社の全社レベルでの営業連携体制の構築
- 丸紅の持つグローバルなパートナー/顧客ネットワーク、人財、事業開発知見の活用

インオーガニック戦略の強化

- 新規市場のリサーチ、成長機会の捕捉
- 既進出国における投資戦略の再評価
- みずほリース内の他事業本部との連携強化

既存現法の事業基盤拡大

- 新しいマーケット・プロダクツの取組強化
- みずほ連携、丸紅連携の強化、ベンダーファイナンスの推進

国内顧客へのソリューション提供力強化

- インド/ベトナムでの販売金融機能、クロスボーダーローン等、他社差別化が可能な機能の拡充

グローバル人財の育成

- 社内公募、キャリア採用による人財発掘と育成
- 国内勤務者の海外登用による人財のグローバル化

2024年度のレビュー

- Rent Alphaは23年6月に買収後、経営統合（PMI）を完了、事業は順調に成長中であり、24年8月に出資比率を54.7%から87.6%に引き上げ
- 既存現地法人は、みずほ連携、丸紅連携を梃子とした顧客基盤の拡大、営業資産の積上げにより、新規契約額は順調に拡大

リスク認識と対応

- ウクライナ、中東地域における紛争の地政学リスクによる物流の混乱等、拠点進出国の経済環境悪化に伴う信用リスクの顕在化
⇒経済環境の先行きが不透明な中、大口与信リスクの回避/分散、モニタリングを徹底
- 海外主要国金利は物価の落着きを受けて低下局面に入り、リース機器への設備投資増や消費拡大をはじめとする景気浮揚が期待されるが、トランプ関税に伴う対米輸出低迷による業績悪化懸念等、顧客側の危機意識は引き続き強い
⇒顧客に寄り添い直面する課題や売上動向を緊密に聴取し課題解決をサポート

ビジネストピックス

丸紅連携

2024年5月公表の丸紅との資本業務提携契約締結以降、丸紅連携室を立ち上げ本格的な連携がスタートしました。この1年間の主な連携実績は、TotalEnergiesが保有するポルトガルの再生エネルギーポートフォリオ事業50%持分の共同取得、国内大型不動産のブリッジ、丸紅国内外グループ会社に対するリース実行など、682億円の実行高を上げました。また人財交流も活発化しており引き続き連携を強化して営業推進してまいります。

Mizuho RA Leasing / Mizuho Capsave Finance

2025年3月「Rent Alpha」を「Mizuho RA Leasing」へ、2025年4月 同社の100%子会社である「Capsave Finance」を「Mizuho Capsave Finance」へ社名変更を実施しました。社名にMizuhoを冠することにより、みずほフィナンシャルグループならびにみずほリースグループの一員として、インドにおけるプレゼンスの向上を図り、お客さまのインド事業のニーズに応えることを目的としています。社名変更の効果として、Capsave社の現地格付会社の格付が最上位（AAA）に格上げになりました。



Krungthai Mizuho Leasing

当社が49%出資するKrungthai Mizuho Leasing Co., Ltd.の合併先のクルンタイ銀行と、タイでのクルンタイグループとみずほフィナンシャルグループとの協働を強化しています。津原会長のタイ出張時に、クルンタイ銀行Payong頭取以下トップマネジメントとみずほリースのメンバーに加えみずほ銀行竹谷バンコック支店長も参加した「クルンタイ-One Mizuho ランチョンミーティング」を実施しました。

